



1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年5月7日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690600020
法人名	NPO法人 サンテター
事業所名	小規模多機能ホーム コミュニティの杜
所在地	鹿児島県阿久根市山下156-1 (電話) 0996-79-3623
自己評価作成日	平成26年4月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

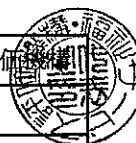
- 地域に支えられている施設であると自覚し地域住民の方々が気兼ねなく立ち寄ることができる施設を目指してきました。その一つとして
1. 高齢者と利用者のグランドゴルフ大会の開催 年2回、
 2. 地域住民参加の防災訓練 年2回
 3. 11災害を教訓とした災害訓練(地域住民と炊き出し訓練
 4. 地域住民・利用者・ご家族・職員のご家族の親睦会(夏祭り)
 5. 小学生と高齢者との交流 薩摩の猿回しショーの開催
 6. 地域住民と利用者とはそば打ち
 7. 地域住民と利用者とは小学生と交流(餅つき大会)
 8. 山下小学校の運動会へ参加
 9. 山下小学校3年4年生と高齢者との交流(じゃが芋堀とじゃが芋の勉強会)
 10. 地区の消防団との避難訓練
 11. 運営推進会議へ地区の住民参加

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機関
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成26年4月22日



- ・理念を基本に、家庭的で地域社会とのつながりを大切にし住み慣れたところで、その人らしく生活できるように、支援している。
- ・町内会に加入し、地域行事に参加したり、施設内で行なわれる行事などに地域住民を招待している。保育園児や小学生・ボランティアなどの交流が行われている。
- ・身体拘束については、「拘束はしない」を目標にゼロを目指している。日中の玄関は施錠もなく、自由に利用者が出入りしている。外出する利用者には、さりげない付添いと言葉かけでやさしく対応している。
- ・利用者が在宅で安心して生活できるように、本人や家族とのコミュニケーションを大切にして、信頼関係を築き個別に情報を把握している。
- ・一人ひとりの日常生活の計画を作成している。モニタリングも定期的に行われ、身体的や精神的に支援している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> ・理念は誰でも目につきやすい場所へ掲げ(4ヶ所)、来所者でもわかるようにしている。 ・朝礼で理念を唱和し、会議等の前でも理念を唱和しています。 ・社員証の裏に理念を記載しいつでも見られるようにしています。 	理念は、玄関をはじめホーム内に掲げ、社員証の裏にも記載し、朝礼や会議等で唱和し、勉強会でさらに掘り下げて話し合い、具体的なケアについて、理念に沿った支援をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	防災訓練、災害訓練、地域の清掃、3万人クリーン作戦参加、餅つき、そば打ち、芋ほり、夏祭り、グランドゴルフ大会等催しがある時は長寿会や民生委員へ声掛けし参加されています。	町内会に加入し、清掃活動やグランドゴルフ等の地域行事に積極的に参加している。保育園児や小学生との交流、ボランティアの受け入れなども行っている。認知症相談にも対処するなど日常的に交流している。地域住民の訪問も多く、野菜などの差し入れもある。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	市南部の各部落で開催される「いきいきサロン」へ赴き、認知症へ講演やDVDを使用し説明している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回開催し市職員、地域の住民12名程度参加され意見交換している。意見は当事業所をより良くするためであるのでサービスへ反映し必ず会議で結果を報告している。</p>	<p>会議は定期的に行なわれている。外部評価の報告や利用者の状況報告・情報交換・具体的改善点などを話し合い、委員からは多くの助言や提案があり、具体的なサービスに活かされている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議へ必ず参加されているため、実情を伝え管理者、理事長も定期的に市役所を訪問し協力関係を築いている。市介護保険係長から一般市民の緊急に宿泊依頼もあった。</p>	<p>市担当者とは、事業所の実情や取り組みについて報告し、アドバイスを得ている。市委託の防火訓練を地域住民と実施したり、行政から緊急措置の宿泊の相談がある等、協力関係を築いている。避難場所としての指定も受けている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>定期的に勉強会を開催し「身体拘束0」をめざし職員へ周知しています。マニュアルは見やすい場所へ保管し誰でもみれるようにしている。外出される方は、障害者施設を運営している為、障害者が外出を手伝っている。障害者が高齢者を支援している事例です。</p>	<p>「身体拘束はしない」を目標としてマニュアルをもとに定期的に勉強会を実施し、身体拘束をしないケアを実践している。昼間の玄関は施錠せずに、職員間の連携で自由な暮らしを支援している。見守りに同法人の障害者施設の手助けをもらうこともある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルがあり、定期的に身体拘束と虐待の防止について勉強会を開催している。職員が送迎中自宅へ赴いたとき等に5種類について確認している。施設内は理事長が随時確認している。今までに「虐待」となるようなことはない。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	法人全体で職員へ阿久根市社会福祉協議会の職員より「成年後見制度」について勉強会を開催した。成年後見委員の方と定期的に会合し情報の交換を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者が事例等を交え説明し利用者やご家族が不安や疑問点がないよう説明している。理事長が帰る前に理解したか疑問点が無かったか再度確認している。4月の改定も個々に説明し同意書を取っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	「施設を良くするのは利用者やご家族の意見や要望であるので協力してほしい。」と常日頃から理事長が言っているので、運営推進会議や送迎時、一部負担金受領時、電話等で意見を言われそれを運営に反映している。意見等は運営推進会議でも報告している。	利用者からは、日頃から話しやすい雰囲気作りに留意し、思いを聞いている。家族からは、連絡帳や送迎時・面会・訪問・電話・家族会・運営推進会議等で意見や要望などを聞いている。出された意見等は職員で話し合い運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議を月1回開催し職員が出席しやすい時間(昼間)に開催したり朝礼等で伺っている。又催し物は担当者を決め自分たちで立案・予算・実施まで行うようにしている。	管理者は職員会議等で職員の意見や気づきを聞く機会を設け、反映を図るよう心がけている。個別に職員の考えや希望を聞いたり、アドバイスをしている。事業所の行事は職員間で企画し、自主性を大切にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	バランススコアカードやコンピテンシーなどを導入し職員が達成感を持てるよう努力している。又催し物等は職員が立案・予算・実施・反省まで行い達成感や次回に繋げる事等務めている。給食も250円で提供している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育委員会で1年間学びたいことをアンケートとり実施している。個々の能力課業を作成し今できていないことを本年度できるよう指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設外研修で職場体験を実施。本年度は昨年度以上に職場体験に力を入れていきサービスの質の向上を目指します。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期面談は、雑談から入り本人やご家族の言葉を聞くようにしている。ある程度信頼関係が気づけたと感じてから仕事を開始する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期面談は、雑談から入り本人やご家族の言葉を聞くようにしている。ある程度信頼関係が気づけたと感じてから仕事を開始する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期面接は誰しも緊張し思うことも言えない状態にあることを理解した上で時間をかけゆっくり雑談を交えながら必要なサービスを見つける。他事業所との違い等も説明している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分でできる事は自分で行ないできないことを少しずつできるように生活リハビリを実施する。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	介護疲れがないか等送迎時に家族にも目配りし疲れているようであればショートを入れ介護疲れをとれるよう支援する。デイでの出来事等記載し情報の共有化を図っています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	デイ利用中でも近隣の住民の訪問も受け付け会話ができる機会を設けている。行きたい場所等もできる範囲で計画的に実施している。	本人の行きつけの理・美容院や買い物店に気軽に通えるよう支援したり、地域行事に積極的に参加し、友人知人の訪問も奨励している。同事業所のデイサービスの利用者の知人や友人・親戚に会いに行ったり、事業所で行なわれる行事に地域住民が参加して懇談している。散歩などで近隣との交流もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が会話できるよう隣に座らせたり前に座らせたり本人のむ意向を聞きながら座る場所を聞き座らせている。テーブルに1人職員を配置し孤立にならないよう障害者も入ってもらっている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	初回面談時にも説明し入院やデイ中止になっても入院中の訪問、電話等で連絡をとっている。本人・家族が電話しないでと申し出がない限り続けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメントをもとに、日々の関わりの中で言葉や表情などから思いや意向の把握に努め、利用者の思いに沿うよう支援している。意思疎通が困難な場合は家族からの情報やアセスメントをもとに話し合い本人中心に支援している。	利用者の個々の思いや意向を聞き、家族や馴染みの友人知人からの情報も得て、日々の生活の中で思いや意向の把握に努めている。宿泊の時は、夜の状況把握をしたり、眠れないときなど会話して、日頃聞けない情報や信頼関係を深めている。把握が困難な場合は家族と話し合い、支援記録を参考に本人の視点に立って職員間で話し合い支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期面談に時間をかけゆっくりとリラックスできる環境を整えアセスメントで把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	初期面談に時間をかけゆっくりとリラックスできる環境を整えアセスメントで把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>本人・家族・主治医・保健師・介護福祉士・介護職員の意見や提案から、介護計画を作成している。記録帳類も活用し、毎月モニタリングを実施し、見直しをしている。状況が変化した時は現状に即した介護プランを作成している。</p>	<p>本人や家族の意向を確認し、主治医や保健師等の助言やアドバイスを取り入れ介護計画を作成している。記録帳類を活用し、日常生活の記録をケアプランに反映し、毎月モニタリングを実施している。状況が変化したときは現状に即した介護計画を作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>1日の記録を取り、訪問時ご家族からの意見等も記録し職員全員が見るよう又は朝礼で申し送りを行ったり介護計画に意見が反映できるようしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>通常のデイとは違い「朝食をとる人、夕食まで食べる人、泊まる人、夕食を届ける人、洗濯をしてやらなければならない人」等多様なサービスを提供している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域資源の把握は開設前から調べ安心して過ごせるよう地域住民と一緒に見守りながら支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人や家族の希望するかかりつけ医の受診が継続できるよう通院介助している。定期・臨時の受診は家族や職員が協力して行っている。適切な医療や看護が受けられるように支援している。</p>	<p>本人や家族の意向を大切にしながら、今までのかかりつけ医の受診を支援している。受診は家族が同行したり、施設で支援している。訪問診療も一部利用している。協力医療機関の往診も行っている。緊急時の対応など連携を取りながら適切な医療を受けられるよう支援している。</p>	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>バイタンチェック、入浴介助時、オムツ交換時に異常を発見したら随時保健師に報告し看護師と相談のうえ対処。主治医にも必ず報告する。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>定期的に病院を訪問(管理者・理事)し、入院が必要になった場合、情報をその日に届けるようしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>終末期や重症化に伴う対応の指針を作成し、利用者・ご家族に説明し当事業所で出来ること、出来ないこと等を説明しそれでも当事業所を利用される場合はターミナルとして対処する。</p>	<p>契約時に本人や家族へ重度化や終末期の指針を説明し、同意書を貰っている。早期に段階的な話し合いを行い、本人や家族の意向を確認し、医師を含む関係者が連携して支援に努めている。職員全員がその方針を共有している。看取りの事例がある。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>職員採用1ヶ月以内に阿久根消防署に依頼し「普通救命講習」を受講させます。年4回消防署の方が施設に来所してもらい講義や救命講習を行っています。</p>	/	/
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>火災訓練 年9回、自然災害 年1回 地域住民と共同訓練 年2回実施している。 夜間火災が発生した場合、近隣の住民12名が駆けつけてくれる体制が整っています。訓練は3月11日実施済 福祉避難所として指定されている。</p>	<p>市の協力を得て、昼夜間想定避難訓練と自主訓練を実施し、福祉避難場所としても指定されている。多数の職員が救急救命士の資格を持っている。近隣職員や地域住民との協力体制もできており、炊き出し訓練等も行っている。災害時の食糧等の備蓄や必要な器具もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇マナーを外部講師にお願いし人格を尊重した接し方を心がけている。プライバシー「入浴」「トイレ」時に一番気をつけるよう指導している。職員採用時に個人情報保護についての誓約書をとっている。	利用者それぞれの尊厳やプライバシーを守り、その時の感情を把握し、すばやく対応できるように、日頃から質の向上をめざし研鑽している。言葉かけについては気を配り、入浴やトイレ誘導などでは、羞恥心に十分配慮して、利用者のプライドを損なわない対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションの参加も無理やりに参加させない。何がしたいか等、聞き計画に取り入れている。食事の時間も昼は12時であるが14時までは保管し食べたい時に食べさせている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	アセスメントをもとに、何を希望しているか等把握し希望に沿ったレクや生活リハビリ等本人にあったペースで支援している。(急がすことはない。)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	日中パジャマ姿の人はいない。本人の希望やご家族の希望等聞き着替え等手伝っている。基本自分でできることは自分でする事としている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査、行事食、季節を感じる食事、本人にあった自助具の工夫、配膳や後かたづけ等できる人は行ってもらっている。(事前にご家族へ了承している)	利用者の嗜好に配慮した献立を作り、力量に応じて準備や配膳・後片づけを職員と一緒にやっている。らっきょう漬けや梅干なども作っている。自助具も利用している。魚市場から新鮮な魚を直接届けてもらうなど食事が楽しみなものになるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量、排せつ回数をチェックし栄養不足、脱水症状にならないよう保健師、看護師が注意観察している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員が一人付、毎食後口腔ケア実施し口腔の異常がないか確認している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表で個々のパターンを把握し、オムツ利用者もトイレ誘導しトイレで排泄支援している。昼間はトイレ誘導を心がけオムツ使用者は昼は少ない。	「オムツはしない」を目標に取り組み、習慣や排泄チェック表を参考にして、声かけや見守り・しぐさなどで把握して、トイレ誘導をしている。オムツを減らす取り組みや排泄の自立を支援している。オムツ利用者もトイレでの排泄支援を大切にしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	高齢者は便秘になり易いので、水分量のチェック、野菜を多く取り入れた料理を提供している。主治医の指示で緩下剤を服用しているが、自然排便を心がけてトイレ誘導している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は原則一人(プライバシー)でゆっくり楽しめるようにしている。二人で入浴したいと申し出があれば二人入浴できる。又希望があれば月1回出水市内の「ぬくもりの湯」温泉施設へ連れていきます。	個々人の体調や希望に添った入浴ができるように支援している。マンツーマンでゆっくり入浴を心がけている。計画を立てて外の温泉施設も毎月1回利用している。同性介助の配慮もしている。入浴をいやがる利用者には、声かけなどの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	特に昼食後眠くなる人へは簡易ベットを用意し休んでもらう。昼の部屋が空いていたら畳で休んでもらっています。アセスメントで利用前昼寝していた人は簡易ベットを用意し誘導します。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から処方される薬の効能リストを個々に綴っている。特に保健師や看護師が症状の変化の確認をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	元気な頃の職業や特技、趣味等アセスメントから確認し本人が好きなこと、楽しみなことを実施している。生け花、野菜作り、魚の下ごしらえ等実施している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩や花見、長島の花フェスタ、ドライブ、1日遠足、地域住民とイベントを行い戸外に出かけ支援している。車いすの方も外出対応している。	日常的には散歩や買い物、ドライブ、理・美容院など戸外に出かけられるよう支援している。計画を立てて花見や地域のイベントなどにも出かけている。車椅子利用者の外出対応も行っている。隣接の障害者や家族も同行する場合もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は家族管理であるが、家族が希望した場合施設管理している。買い物に連れていく時に自分で財布からお金を出す喜びがある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	「電話を掛けたい」と申し出があればかける手伝いを支援する。宿泊者で1週間も連絡が無いときはこちらから「電話掛けませんか」と声かける。手紙はポストへ入れることを支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝全職員で環境整備している。汚染があった場合は随時掃除している。換気、採光、温度、湿度時間で点検している。障害者の方が清掃も行っている。調理室は利用者と一緒になれるよう広くとっています。	共用空間は、天井が高く、換気や採光に配慮し明るい。温度や湿度はこまめにチェックされている。調理室が広く利用者も出入りしやすい。壁や空間に花などがさりげなく飾ってあり、掃除が行き届き清潔である。椅子も使い易いように配慮されて安全で居心地よく過ごせるような工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各部屋へソファ・ベットがあり自由に過ごすことができる。外にも椅子があり日向ぼっこが楽しめる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋には箆笥・ベットがあり、動物は持ち込み禁止であるがそれ以外は自由に持ち込みでき、馴染みの物も持ち込み出来る。	泊りの部屋は、ベッドとタンスが備え付けである。本人や家族と相談しながら、自宅で馴染んでいる身の周りの物が置かれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーになっている。又車いすや片麻痺の方でも対応できるようなトイレである。できるだけ出来ることは自分一人で行うよう見守りをしている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない